



は、1922～1930 (大正11～昭和5)年に起こった、全国的にも有名な争議です。これは、木崎村で小作人による組合が結成されて、地主に小作料減免などを要求した運動です。さまざまな事件があったなかでも、1926(大正15)年、小作人の子どもが通うための学校(無産農民学校)が組合員によって建設されたことが大きな出来事です。1972(昭和47)年、木崎村小作争議50周年記念碑が無産農民学校の西入口があった場所に建立されました。新潟市北区郷土博物館には、この争議に関する資料を展示しています。

9. 中大川土居跡



葛塚地域を水害から守るため造られた堤防の跡です。葛塚全体を囲いこんだこの堤防は、庄屋の速藤七郎左衛門宗寿の指揮のもと村人総出で造りあげたといわれ、1788(天明8)年の絵図にも描かれています。村人が力を合わせて、この堤防を補強し続けたため、1857(安政4)年の加治川決壊による水害も防ぐことができたといわれています。新井郷川排水機場の稼働で水害の危険が少なくなったことなどにより、堤防は取り壊され、正尺に一部残っているだけです。水と闘いながら生活した地域の歴史を伝えています。

10. 水死亡霊塔



この塔の建つ道路は、かつて福島潟と黒山潟をわけていた堤でした。江戸時代、福島潟の新田開発のために造られたもので、堤ができる前は、福島潟は1つの大きな潟でした。そのころ、対岸への往来や漁などのために潟端に住む人々は小舟で潟を行き来していましたが、突風が吹くと舟が転覆して水死する人もいたそうです。この塔は福島潟で水死した人々の供養と水上安全を祈り、1843(天保14)年に龍雲寺の僧によって建てられました。

23. 県立島見緑地

さまざまな遊具で自由に